

# 汚染水タンクからの漏えいに関する リスク低減対策について

平成25年8月26日  
東京電力株式会社



東京電力

---

# 1. 実施済みおよび実施中の主な対策

---

## 1-① フランジ型タンクの全数点検

- 漏えいが発生したH4-I-No.5タンクと同じく1～4号機汚染水の貯留を行っているボルト締め(フランジ)型タンクについては、8月22日に全数点検実施済み
  - ・外観点検、タンクの地上50cm付近のβ全量測定付近の水たまり有無の確認および線量測定、堰周辺の線量測定(並行して漏えいの原因究明および対策立案実施)

## 1-② No. 5タンクと同様に一度設置した後に移設したタンクからの水の移送

- H4-I-No.5タンクの汚染水については8月21日に移送済み。同様の経歴を持つH4-I-No.10タンクは移送中(8月26日完了予定)、H4-II-No.3タンクは移送準備中

## 1-③ 汚染土壌の回収

- 8月23日から実施中
- 汚染状況を調査しながら作業するため終了時期は未定だが、早期完了に向け検討中

## 1-④ フランジ型タンク廻りの堰の点検・補強

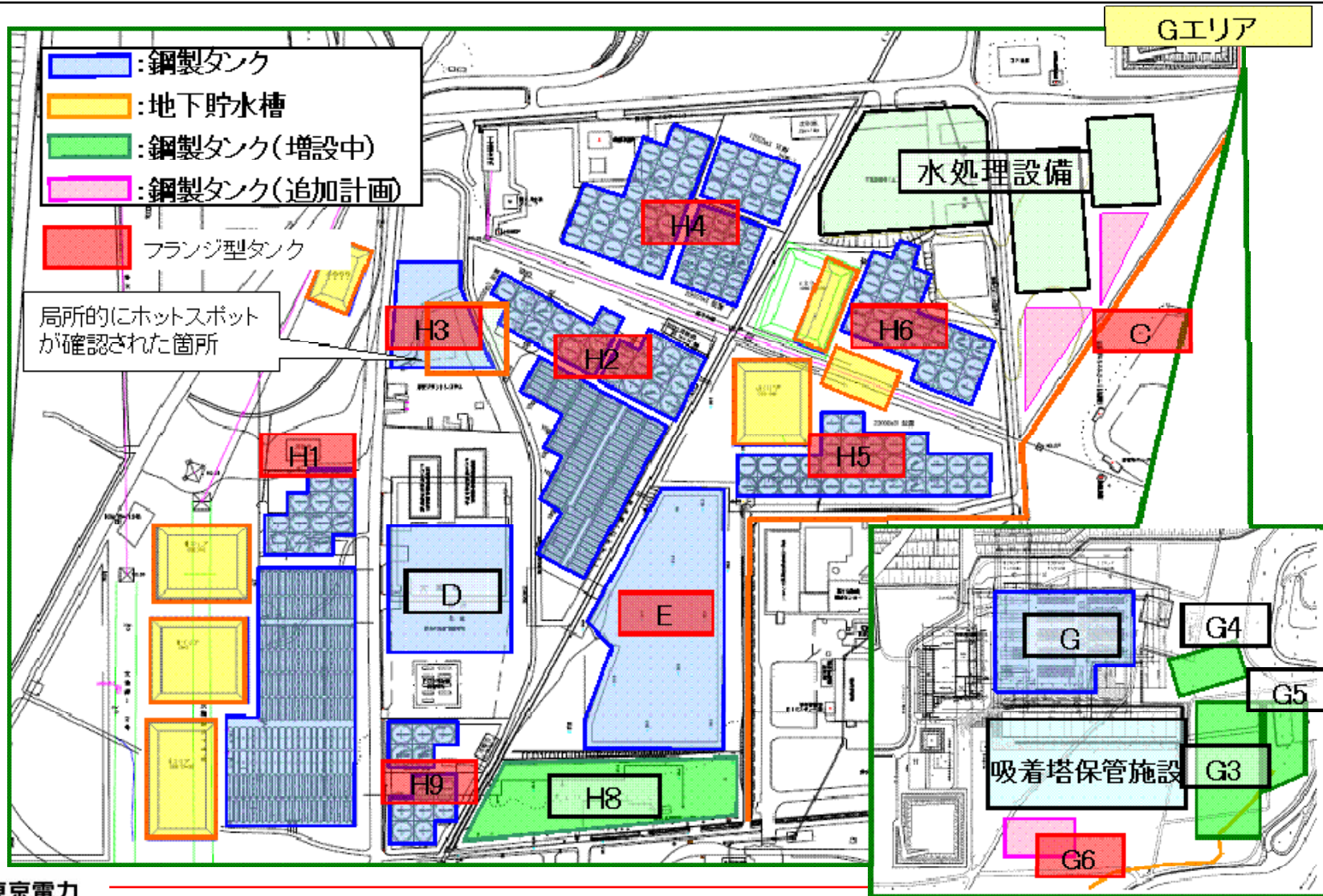
- 8月22日にフランジ型タンク廻りの堰が汚染されていないことを確認。漏えいのあったH4エリア外部の土嚢には盛土および遮水シートを追加設置済み

## 1-⑤ モニタリングの強化

- 8月20日以降、海洋へ通じる排水溝海側のモニタリングを強化
- 海洋への流出可能性を調査中

# 【対策1-①】タンク設置状況

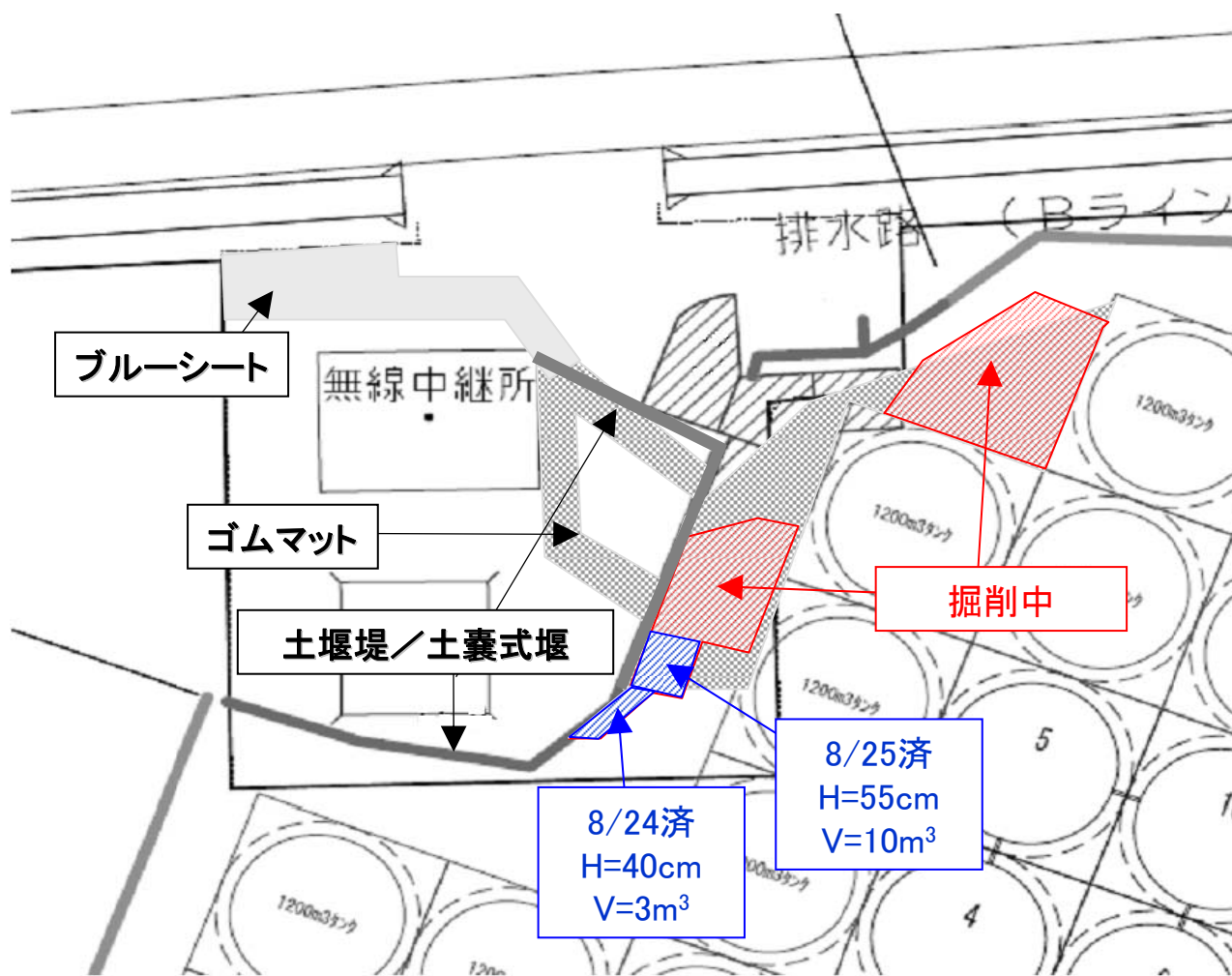
■ 1～4号機の汚染水を貯留している全タンク約930基のうち、フランジ型タンク約300基を全数点検





# 【対策1-③】汚染土壌の回収の実施状況について

- 土嚢式堰内の汚染土壌の除去を8月23日から開始
- 除去完了箇所については、深さ約40～50cmにて汚染が明瞭にみられないことを確認



【計測状況】



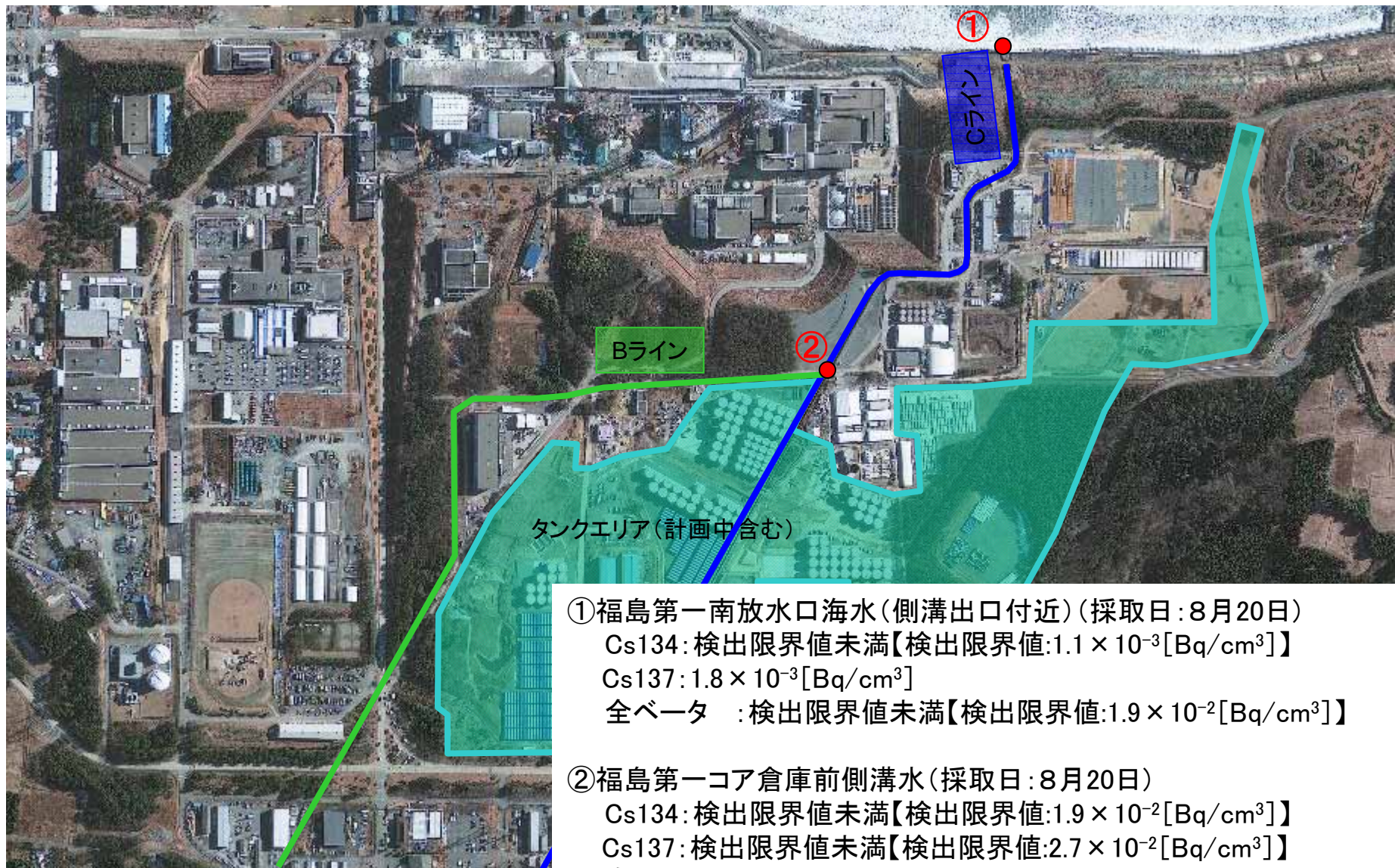
【対策実施後】



# 【対策1-④】盛土および遮水シート施工状況(8/20現在)



# 【対策1-⑤】海洋への流出調査



注)  $\beta$ 線は70  $\mu$ m線量当量率

## 2. 緊急対策

---

### 2-① パトロールの強化

- 当社社員に協力企業社員を加え、早急にパトロール要員を約50名増強
- エリア毎に担当者を固定する「持ち場制」導入。状況をきめ細かく把握することで早期に異変を感知
- 担当エリアのタンクごとに、側面ならびに底部を含め360度確実に網羅し、漏えい・漏痕・疑わしい水たまりの有無等を点検・記録
- 常時簡易線量計を携帯し、有意な放射線量の有無を確認・記録。変動があれば、電離箱線量計により詳細に測定・記録

### 2-② 汚染水タンク廻りの堰排水(ドレン)弁の「閉」運用について

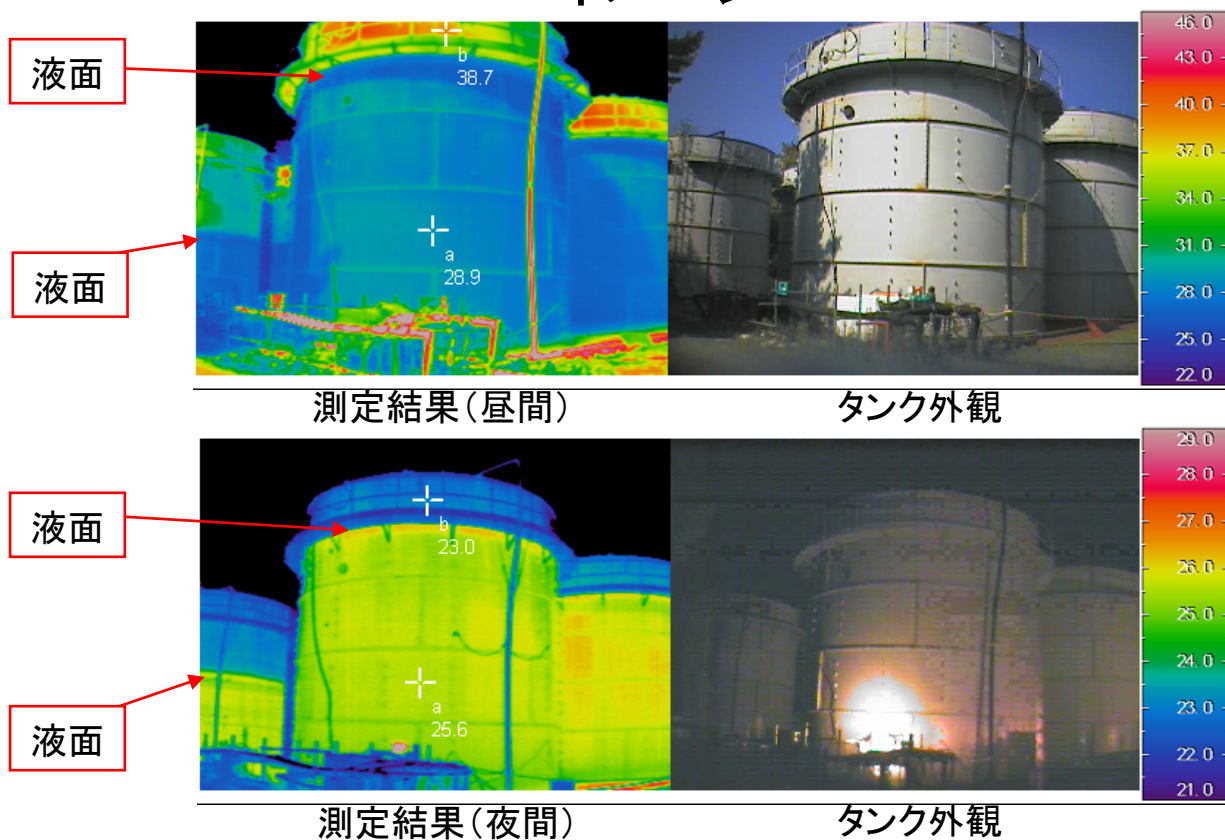
- 堰内の雨水管理方法等の工夫を加え、堰の排水弁を現状の「開」運用から「閉」運用に変更



## 2-③ 汚染水タンク内の水位管理方法

□フランジ型タンクは、サーモグラフィーによる水位低下管理手法を導入

### イメージ



<注>  
サーモカメラ温度測定結果  
の色調と温度の関係は昼  
間と夜間で異なる表示と  
なっている

### 3. まとめ

---

- ✓ お示した対策を早急に実施してまいります。
- ✓ さらに、以下の対策を含めた、抜本的な対策についても追加的に検討いたします。
  - フランジ型タンク全数での水位計設置および集中管理システムの導入
  - 溶接型タンクの増設やフランジ型のリプレイス
- ✓ 国の各種会議やワーキングのご意見、ご指摘も踏まえ、汚染水・タンク問題を喫緊かつ最大の経営課題として、全社を挙げて解決に向けて取り組んでまいります。